

《《登山ガイド育成学校》》第4期 2025年4月26日開校



登山ガイド育成学校開校 説明会

2025年2月2日(日) 13:30~

申込: school23@jfmga.com ウェブ参加可。要問合せ

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター

東京都渋谷区代々木神園町3-1

最寄駅: 小田急線参宮橋駅

1年間 57日間の室内・野外授業 2つの資格を同時に取得できる

日本山岳ガイド協会認定・登山ガイドステージII資格

国際マウンテンリーダー連盟認定・IML ハイキング・トレッキングガイド資格

活躍の場は広く、ヨーロッパアルプスはもとより国内インバウンドへも広がる

授業料 1年間 合計 57日間 998,000円 (分割払有) (消費税込)

申込み受付期間 2025年3月1日より4月5日まで (期限厳守)

募集定員: 12名 (先着順) 実施最少人数 6名

登山ガイド育成学校の目標と指針

『本校の目標』

ガイドとしての視点・観点を身につけ、そしてガイドとして必要な基礎的な知識および経験を身につけ顧客に信頼されるガイドを育成する。

『目指すガイド像』

- ・慢心することなく常に向上心を持って業務に就くガイド
- ・常に顧客の安全と楽しい登山体験を目指すガイド
- ・生涯を通じて、年齢に応じて業務を長く続けることが出来るガイド
- ・収入の安定した職業としてのガイド
- ・強い指導力と協調性を持って顧客を安全に導く事が出来るガイド
- ・明治時代以降、連綿と続いてきた登山文化の担い手を継承するガイド
- ・顧客と比べて、圧倒的に優れた経験値・知識を有するガイド
- ・広く世界に視野を広げるガイド
- ・常に自分で判断出来るガイド

4月から翌年3月までひと月にほぼ2回のペースで1泊2日および複数日数の授業を実施いたします。

57日間の授業を規定の水準で修了したのち、資格が認定されます。

入校応募基準

満18歳以上であること。

野外授業に参加できる体力があること。

授業に必要な登山装備を所持していること。

講師と会話・コミュニケーションが普通にできること。

課せられたレポートを期限内に提出できること。

現在は全ての授業・講義を日本語でのみ行っているため日本語が理解できること。

※上記事項が達成できない場合は途中退校をお願いする場合があります。

※IML 資格は、登山ガイドステージⅡの付帯資格となります。IML 資格は単独では取得できません。また、IML 資格は、国際マウンテンリーダー連盟に加盟することにより認定されます。

登山ガイド育成学校の授業課程 カリキュラムの内容について

室内授業

基礎的知識

- 1, ガイド概論
- 2, 日本近代登山史、ガイドの歴史
- 3, 登山用具及びガイド装備に関する知識
- 4, 基礎的知識（自然環境に関する事柄）
- 5, 基礎的知識（自然科学に関する事柄）
- 6, 農山村に関する基礎知識（歴史、文化）
- 7, 登山のスポーツ科学の基礎知識
- 8, 山の天気（気象に関する基礎知識）
- 9, 読図・地形解説の基礎知識

専門的知識 1

- 10, 自然観察解説技術
- 11, 安全管理技術
- 12, 危急時対応技術
- 13, 雪山の安全管理（雪崩対策）
- 14, 積雪期対応技術
- 15, リスクマネジメント
- 16, リスクアセスメントの方法

専門的知識 2

- 17, ガイド業務に係る法律知識
- 18, ガイド業務における倫理
- 19, ガイド事業展開の実務概論
- 20, ガイドの営業・広告戦略概論
- 21, ガイド商品の企画・計画立案の方法及び注意点
- 22, ガイドの健康管理

専門的知識 3

- 23, ガイドのコミュニケーション論
- 24, ガイドの異文化コミュニケーション論
- 25, 観光文化に係る知識
- 26, エコツーリズムとサステナブルツーリズム
- 27, ネイチャーツーリズムの考え方

野外授業

登山ガイドの基礎技術

- 1, 登山道の歩行とガイディング基礎
- 2, 歩行時における安全対策
- 3, 無雪期のルートガイディング
- 4, ナビゲーションとオリエンテーション技術(夏)
- 5, グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ
- 6, サバイバル技術、ビバークとツェルト
- 7, 応急処置と救助の実習
- 8, 天気の見方 観天望気の実習
- 9, 山中2泊3日の山行計画立案と実施（無雪期）
- 10, 山岳環境の知識と啓発実習
- 11, 岩稜、岩場の通過時の安全対策（ロープワーク）
- 12, 沢の渡渉時の安全対策

登山ガイドの積雪期技術

- 13, 積雪期登山のルートガイディング
- 14, 雪洞の建設とビバーク体験
- 15, スノーシュー使用時の安全対策
- 16, 低体温症、凍傷の防止対策
- 17, 山中1泊2日の山行計画立案と実施(積雪期)
- 18, 雪崩地形の把握実習
- 19, 雪崩対策の基礎
- 20, 積雪期の安全管理技術
- 21, ナビゲーションとオリエンテーション技術(冬)
- 22, 残雪期のルートガイディング

登山ガイドの解説技術

- 23, 地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド
- 24, 低山、里山の解説主体のガイド
- 25, 自然ガイド 四季を通じてのガイド
- 26, 自然に特徴のある里地、里山でのガイド
(湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など)

高リスクの山行における技術

- 27, ガイディング・引率技術・ガイドのロープ技術
- 28, 岩稜、沢登りなど難路のガイド
- 29, 中級山岳のガイド技術
- 30, 高山帯のガイド技術
- 31, 岩稜登高技術

危急時対応技術

- 32, ファーストエイド実習
- 33, 野外救急法
- 34, 搬出・救助技術野営・ビバーク技術



雪あり、谷ありの様々な形態で研修を積みます。



登山ガイド育成学校で取得できるガイド資格は

登山ガイドステージ II (職能範囲の説明)

国内で四季を通じて整備された登山道において登山ガイド業務を行う事ができます。

但し、スキーガイド分野は別にスキーガイド資格を取得する必要があります。

<活動範囲> (職能範囲)

無雪期の一般登山道。登山地図の実線で示されたコース。破線、難路と示された登山道は除く。

登山道、林道と並行または隣接する沢、谷で大きな滝のないエリアで半日程度の行動時間の沢歩き。

積雪期は、森林限界を越えない範囲（雪原は可）で、ロープウェイなど交通機関および冬季も営業している施設から2～3時間の行動時間で日帰りができるエリアとなります。

国際マウンテンリーダー ハイキング・トレッキングガイド資格

国際マウンテンリーダー(IML)ハイキング・トレッキングガイド資格（以下 IML と表記する）とは、「THE UNION OF INTERNATIONAL MOUNTAIN LEADER ASSOCIATION」(略称 UIMLA: ウイムラと発音)の定める規定に従って、所定の団体により認定された「INTERNATIONAL MOUNTAIN LEADER」を示す日本語です。

●職能範囲

国内においては主たる職能資格の範囲に準じますが、国外においては IML 資格が規定する職能範囲に限られます。

国外ただし UIMLA 正会員国および地域

国外においての国際マウンテンリーダー(IML)ハイキング・トレッキングガイド資格の職能範囲は、UIMLA の Standard により規定されます。また活動する国・地域における法律・条例などを遵守しなければなりません。

IML は、無積雪期、積雪期も含めて四季を通じてハイキング、トレッキングを主体としたガイド、サポート、授業を行うことができます。

下記の活動は職能外となるため業務外となります。

1) 氷河上における活動

ただし、公式に認められたマーキング済みルート

ショートロープやハーネスを用いず横断する場所に限定して通ることが可能です。

2) ショートロープやアルパイン用具（ピッケル、ロープ、アイゼン）を使用する登下降のある行動。

3) スキー・スノーボードを使用する活動。

但し、スノーシューの活動は職能範囲となります。

<活動エリア>

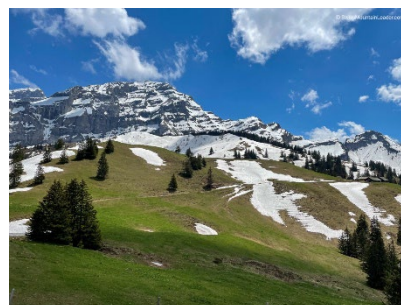
国内

主たる資格（登山ガイドステージ II、III、山岳ガイドステージ I、II）の職能に準じます。また、スキーガイドなどの付帯資格を有しているものは、有している付帯資格によって定められた活動範囲となります。

国外

UIMLA 正会員となっている国および地域において、IML の職域（ハイキング・トレッキング）での活動ができます。日本山岳ガイド協会によって発行され、有効な UIMLA 資格証（Carnet）を携帯することが義務付けられています。

UIMLA 正会員および準備国 本部 スイス



アンドラ、アルゼンチン、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、スイス、チェコ、ドイツ、スペイン、フランス、イギリス、クロアチア、イタ

リア、日本、北マケドニア共和国、ハンガリー、ノルウェー、オランダ、ペルー、ポーランド、ルーマニア、スロベニア、スロバキア、スウェーデン、チリ、イギリスおよびアイルランド、ネパール、ボリビア

以上27ヶ国

準備国（アスピラント）

ジョージア、ギリシャ、アメリカ合衆国 以上3ヶ国



授業スケジュールについて

詳細は、都度ごと受講者にメールで案内されます。実施場所、集合時間、場所などは、メールにてご案内いたします。

受講生には、授業ごとにシラバスが配布され、シラバスに従った内容で授業が進みます。いずれの課題も複数回念入りにこなします。

本登山ガイド育成学校で使用される教本



公益社団法人日本山岳ガイド協会登山研修所 上高地アルプス山荘



公益社団法人日本山岳ガイド協会は、北アルプス・上高地に登山研修施設を所有しています。この施設を利用し、登山ガイド技術を磨くことができます。また、会員であればどなたでも利用できます。上高地バスターミナルから徒歩 3 分、河童橋へは徒歩 7 分と至近です。

登山ガイド育成学校の生徒の皆様も利用することが可能です。登山の経験を積むためにぜひご利用ください。

利用方法につきましては、入校時のオリエンテーションにおいてご説明いたします。



ルートファインディングの実習風景

登山ガイド育成学校陣容紹介

講師陣は、ガイド育成に豊富な経験を持つ現役ガイドが務めます。経験豊富な職業ガイドならではの貴重な体験をあなたに直接伝えながら指導にあたります。

また、机上授業の授業を担当する講師も全て現役のガイドばかり。専門的な知識・技術はもちろん、プロとして必要な心構えも伝えます。

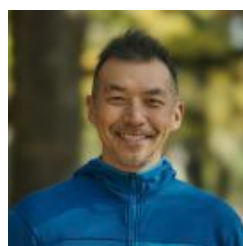
相談役	山本 史朗	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
学校長	上野真一郎	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
副学校長	後藤 千春	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
	川崎 拓兵	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
教 頭	三上 浩文	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
事務長	河野 格	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
	熊崎 潤	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会
	高橋 摂	日本山岳ガイド協会	登山ガイド育成学校委員会



上野校長



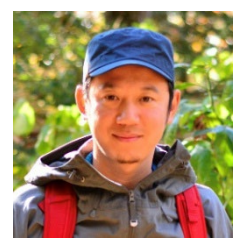
後藤副校長



川崎副校長



三上教頭



河野事務長

野外授業の進め方

野外授業は、登山ガイド育成カリキュラムに従って進められます。まず、カリキュラムの内容を十分に把握してください。個別の野外授業は、担当講師のシラバスに従い進められます。

序盤は、ガイド業務の実際を見てガイドとは何か学ぶ。講師に従ってガイドの技術、作法、話術を見せてもらう、体験するなど学びながら、野外授業を重ねていきます。ガイドとはどんな仕事をしているのか。実際にガイドの仕事を体験していきます。

中盤は、育成学校生徒の皆さんがガイド役となって実際にガイド業務のシミュレーションを行いながら授業を進めていきます。同時にガイドにとって必要な技術を学びます。何度も繰り返し行うことで、ガイド技術が身についていきます。授業のカリキュラムによっては、特に積雪期は、序盤からの経験をもとにあるいは、講師の進め方により、育成学校生徒の皆さんのガイドシミュレーションの方法が変わることもあります。



冬の低山でのガイド実習



スノーシューを履いて雪の中の実習



ガイドとしての基盤を固めるために

ガイドは、経験を積むことが一人前になる道です

ガイドにとっての基盤とは何か。ガイド技術、知識、経験もさることながら、業務がヒトに直接関わるサービスだけにその人間力も重要な要素となります。

登山ガイド育成学校では、職業ガイドとしての基礎教育、専門教育はもちろんのこと、人間性の質を問われるガイドという職業の特性として人間的力量をアップする教育指導をカリキュラムに盛り込んでいます。全部授業を修了することによってガイドとしての基盤を固め、速やかにプロとして活動できるように育成いたします。

ガイドを生涯の職業として選ぶことができる技能を身につけます。

キャリア支援

また、本登山ガイド育成学校では、ガイド業務に就けるようにキャリア支援を設けています。在学中に学び積み重ねたことを生かしてどんなガイドになりたいか、その方向性、進みたい道を相談することができます。「ガイドになった後の将来への不安」や「仕事について」などもカウンセリングすることも可能です。

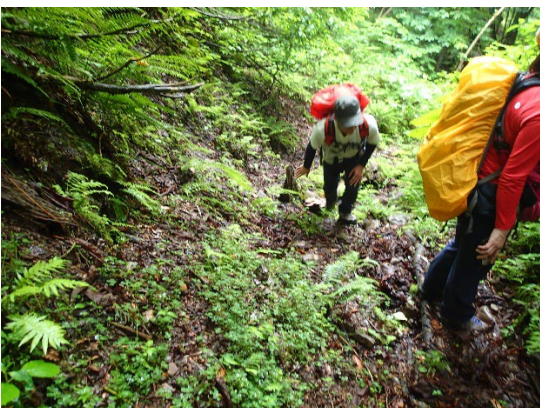
OJT への参加

授業と同時並行してガイドの実践訓練である現場体験を OJT「On-the-Job Training」の取り組みとしてガイド経験を積むことができるように準備してください。OJT はガイドの実践を通じて業務知識を身につける育成手法で経験豊富なガイドに同行し、実際の業務の仕方を自分自身で確かめる方法です。授業やマニュアルだけではなかなか実践につながらない知識・スキルを身につけることができるのが特長で実務への近道になります。およそ 10 日程度の OJT に参加してみてください。

※ガイドの OJT は、ツアー登山、個人ガイドに同行し、ガイドの会話、身のこなしなどを実際に見て聞いて学びます。実施時期は、後期 9 月以降、授業の半分以上を修了してからの参加となります。OJT は参加するツアー会社、ガイドにより内容、費用が異なります。

個人山行の経験も積み上げ

OJT と合わせて個人山行としてのチャレンジも 30 日程度取り組んで経験を積んでください。個人山行は、自ら企画立案することによってプランニング、計画性への実践が磨かれ、より完成されたガイドへと近づくことと確信いたします。本登山ガイド育成学校は、即戦力としてのガイド育成を目的としています。



少々荒れた登山路も経験



植物観察も重要だ。

授業の経過と評価

本登山ガイド育成学校では、1年間で授業が57日間、それ以外に自主参加のOJTが10日間、個人山行が30日間となり、合計97日間の登山漬けの生活となります。年間約3分の1は山に出かけているということになります。もちろん、難しいとお考えであれば、OJTや個人山行はセーブされても結構です。数年かけて経験を積むというのも方法です。

授業の経過と評価

本登山ガイド育成学校では、全日程57日間の授業を修了することによりガイド資格が認定されます。1日でも欠席すると認定することができません。

本登山ガイド育成学校では、室内授業、野外授業ともに一回ごとの授業修了後、受講生の評価表を作成し、授業成果をフィードバックいたします。その評

価に従い、補うべき点を自ら点検し、次の授業に備えていただき、レベル向上を図っていきます。これにより一年間の授業計画で目標とするガイド資格水準に達することを目指しています。

計画⇒実行⇒評価⇒修正⇒計画 のサイクルを繰り返し技能の習得を図ります。

授業を受けるに当たっての注意事項

授業期間中は、基本的に禁酒・禁煙です。また、講師の許可なく別行動を取ることも禁止

されています。

授業受講レポートの提出

各授業が終了したら、一週間以内にレポートを提出します。(所定書式)提出がない場合は、授業に参加したとはみなされず、欠席扱いとなります。その

場合、補講を受けるか、最悪の場合、資格を取得できないことがありますのでご注意ください

授業の有効期間

本登山ガイド育成学校における授業の受講期間は2年間となっています。この2年間にすべての授業を

受講しなければ、所定の単位を未修とし、登山ガイド資格を取得することができません。

授業の欠席、休学について

◆欠席について

授業を欠席し、再受講をする場合。

欠席時の再受講は、1年間を通し納入が済んでいる場合は、翌年の同一時授業を受講します。一授業につき、15,000円の追加費用を支払うことで受講できます。

有効期限は、いずれも入校から2年間となります。但し、ケガ、病気、海外赴任など授業を受けられない事情が生じた場合、相談に応じることができます。

◆休学について(※1)

入校後、やむを得ない事情により、3ヶ月以上連続して授業を欠席する場合は、休学届(※2)を登山ガイド育成学校校長宛にご提出下さい。休学届を提出した期間は、翌年同時期の同授業に、追加費用な

しで出席することができます。

休学届は、休学する期間の最初の授業開始日から数えて、少なくとも1ヶ月前を目途にご提出ください。事後の提出は認められません。

休学届の提出がない場合は、3ヶ月以上の欠席であっても通常の欠席扱いとなり、翌年の再受講の際、追加費用が発生します。

また、3ヶ月に満たない欠席の場合も、通常の欠席扱いとなり、翌年の再受講の際、追加費用が発生します。

※1 当該年度の納入最終期限までに授業料全額の納入が必要です。

※2 休学する理由と期間の記載が必要です。

授業料について

本登山ガイド育成学校には、次の費用がかかります。

授業料 全 57 日間 998,000円

授業料には授業費用、共通テキスト代、講師の配布するその都度のレジュメ、講師の諸経費、共同装備使用料などが含まれています。また、普通傷害保険料のほか、授業修了証の発行も含みます。ただし、ガイド資格登録に関わる認定証の発行費用、登録費用は含みません。

本登山ガイド育成学校入校後、机上授業会場、野外授業会場までの交通費、実施期間中の食費、宿泊費

は授業費に含まれませんのでご注意ください。また受講生が授業中、個人的に使用する装備代、通信費、飲食費などの費用も含みません。

※授業料には、研修場所までの交通費、研修地での宿泊費、食費、その他個人的支出は含まれていません。

※授業料には、研修で使用するテキスト、配布される資料以外の登山装備、登山に必要な衣服、ロープウェイ等の利用費用は含まれていません。

・ 授業料の納入

原則一括払いになります。いったん納入された授業料の返還は原則として認めません。

お支払いの期日は、申し込み後、3 日以内にお願いいたします。授業料の納入を受けたのち、入校が認められます。

分割払いの方法

分割払いも可能です。分割払いは、前期と後期の 2 回分割のみとなります。

前期納入分は、550,000 円

後期納入分は、500,000 円

前期の納入期限は、受講申し込み後 3 日以内。

後期の納入期限は、2025 年 9 月 20 日まで

お支払方法は、すべて銀行振込みによる現金払いとなります。クレジットカード、各種ローン等のご利用はできません。ご了承ください。

重要事項 登山ガイド育成学校入校参加条件書 必ずお読みください

申込書、入校事前課題に必要な事項をご記入の上、登山ガイド育成学校事務局あてに必ずメールでお送りください。同時に、授業料を下記指定の銀行口座までお振込みください。また、身分証明の書類（運転免許証、マイナンバーカードなど公的な写真付きのもの）のコピー、および顔写真データ（ガイド育成学校生徒証作成のため、背景無し、正面向き）をメールにてお送りください。

振込銀行口座 三菱 UFJ 銀行 四谷支店 普通 1119029

名義人 公益社団法人日本山岳ガイド協会

入校応募条件

公益社団法人日本山岳ガイド協会の登山ガイド資格取得を目指し団体行動の取れる方で下記の条件を満たす方ならどなたでも参加することが可能です。

満 18 歳以上であること。

野外授業に参加できる体力があること。

授業に必要な登山装備を所持していること。

講師と会話・コミュニケーションが普通にできること。

課せられたレポートを期限内に提出できること。

現在は全ての授業・講義を日本語でのみ行っているため日本語が理解できること。

授業料について

授業料には授業費用、共通テキスト、講師の配布する都度ごとのレジュメ、講師の諸経費、共同装備使用料などが含まれています。受講生が個人で使う机上授業会場、野外授業会場までの交通費、食費、宿泊費は授業費に含まれませんのでご注意ください。

・ 授業料の納入

原則一括払いになります。

分割払いも可能です。分割払いは、前期と後期の二回に分けた方法となります。

1) 2 回払い。授業料は、前期と後期の 2 回に分けて分割で支払う方法です。前期納入分は、550,000 円
後期納入分は、500,000 円

分割払いの方法、納入期日につきましては、別紙資料をご確

認ください。

お支払方法は、すべて銀行振り込みを通した現金払いとなります。クレジットカード等のご利用はできません。

授業開催の変更、中止

野外授業の参加者が3名に満たない場合、授業の実施を中止にさせていただきます場合があります。その場合代替授業を行います。授業実施ルートや行動時間、解散時間などは、天候や登山道の状況の変化により変更する場合もございます。その場合、代替え日程を設け授業を行います。授業の都度ごとに詳細の装備リスト、日程、宿泊地などをご案内いたします。

宿泊

授業時の宿泊は、指定の宿泊施設（山小屋、麓の旅館、避難小屋、テントなど）を利用しそれ以外の施設は原則使いません。必ず指定の宿泊施設をご利用ください。宿泊費は、各自支払いです。

食事

実習登山の場合は、各自必要日数分の行動食をご用意ください。（火を使わずに簡単に食べられるパン類、菓子類、おにぎり、飲み物等）テント泊の場合は、所定の食糧を準備していただく場合があります。

机上授業等施設利用の場合は、別途ご案内いたします。

注意事項と安全対策および補償について

本登山ガイド育成学校は、授業実施時において集合後および授業中から解散までは団体行動を原則としています。

登山は自然の中での行為であるために危険が伴います。安全の確保については、講師が最大限の注意を払い万全の体制で臨みますので、講師の指示には必ず従うようお願いいたします。また、参加者の皆さまも自己の安全には十分に注意するよう心がけてください。

授業時は、登山傷害保険を掛けています。補償内容は、次の通り

死亡後遺障害	1,500万円
入院日額	4,500円
通院日額	2,340円
賠償責任	3,000万円
救済者費用	100万円

となります。それ以上をご希望する場合は、別に任意での保険の加入をお願いいたします。

取得できるガイド資格について

本登山ガイド育成学校全 57 日間を修了すると公益社団法人日本山岳ガイド協会認定の登山ガイドステージⅡと国際マウンテンリーダー連盟登録の国際マウンテンリーダー・ハイキングト

レッキングガイド資格を得ることができます。いずれの資格取得にも全 57 日間の授業に参加し、一定の水準の成績を修める必要があります。

水準に達した受講生は、二つの資格を付与されます。いずれの資格も入会金および年会費が別途必要となります。ガイド活動を行うために当協会正会員団体に所属し、所属団体を通じて当協会正会員となり会員証（認定証）を受ける必要があります。また正会員団体の紹介につきましては、授業中盤でご案内いたします。

登山ガイド育成学校入校の取り消しについて

① 登山ガイド育成学校開校前日から起算し 14 日前までに入校を取り消される場合、必ず登山ガイド育成学校事務局までメールにてご連絡ください。取消料として納入額の 20% をお支払いいただくことで入校を取り消すことができます。

登山ガイド育成学校開校前日から起算し 14 日以降は、一旦納入いただきました授業料の払い戻しはできません。

② 入校後、継続して授業を受けているが、授業についていけないなど様々な状況によりガイド資格取得が難しいと判断された場合、登山ガイド育成学校からの退校をお願いする場合があります。その場合、授業料の返金は授業日数によって返金致します。但し、無連絡・理由なく欠席が続いた場合は、自己都合とみなし、授業料の返金措置は行いません。

お問合せ・お申込

すべてのご連絡はメールでお願いいたします。

メールアドレス

school23@jfmga.com

〒160-0008

東京都新宿区四谷三栄町 6-9 丸藤ビル 2 階

公益社団法人日本山岳ガイド協会

登山ガイド育成学校事務局



ガイドの仕事の内容は様々です。顧客の世代を越えて多様な山々へご案内します。

登山ガイド育成学校 装備表

本校授業で必要とされる装備品です。各自ご用意ください。

	品名	数量	説 明
一般装備	リュックサック	1	55ℓ～65ℓ程度以上 背負搬送の荷重に耐えられる強度のもの
	ガイドに相応しい服装	適量	古すぎるウエアは不可。但しオールドトラディショナルでも清潔であれば可
	登山靴	1	ハードトレッキング用
	雨具	1	透湿防水性の素材のもの
	防水スタッフバック	適量	ザック内の全装備を入れられる容量のもの
	ツールナイフ	1	ロープのカットなど、様々な用途で利用できる万能タイプで、携行に適しているもの
	サングラス	1	
	ヘッドライト	1～	顧客用予備も含めて複数
	ツェルト	1	床 130×210cm 程度（間口×奥行）3 人用
	地図およびルート図	適量	検定地エリアの国土地理院 1/25000 地形図を持参すること。磁北線を引いておく。 ルート図は、見やすいと思うものの、広域と詳細があるとよい。 地形図コピー併用も可。スマートフォン等のアプリ及び GPS は不可。 ※地形図については、集合案内資料にて指定する
	時計	1	
	プレートコンパス	1	
	高度計	1	腕時計タイプで可
	ファーストエイドキット	1 セット	テーピングテープ（38mm幅）、暑いときは熱中症対策、寒いときは低体温症対策を加えること
	バーナー&燃料+クッカー	1	緊急時用
	ライター	1	着火できるものであれば可
	ストック	1	顧客の非常時用
	ホイッスル	1	ザック付の物は不可
	実技実施地域のガイド用資料	適量	図鑑・観察用具等
	顧客配布用ガイド資料	指定部数	地域において、任意設定したルートでの顧客向け資料。自分用と講師、他の生徒との討議用 ※ルートガイディング実習時
	水筒	1	真水を含めること
	保温水筒	1	
	行動用食糧	適量	
	ビニール袋	適量	ごみ処理用等
	トイレットペーパー・携帯トイレ	適量	※携帯トイレはビバーク実習時
	筆記用具	1	
	健康保険証	1	
専門装備	品名		説 明
	登山用ロープ	1	UIAA 規格 シングルまたはハーフのクライミングロープ 30m以上、または UIAA 規格 スタティックロープ 30m以上も可 ロープ径については規定しないが概ね 8～9mmφ前後で自分の手のサイズになじむもの。
	HMS 安全環付カラビナ	3	CE 規格品 ロックシステムはスクリューロックであること
	反転防止機能付 HMS カラビナ	1	CE 規格品 ビレイループに装着する
	カラビナ	2 枚以上	CE 規格品 オフセット D、スタンダード D（オーバルは不可）

	ソウンスリング 150～180 c m	1	CE 規格品 危急時の背負搬送、お助け紐などに使用することが多いので幅広いナイロンタイプが望ましい。
	ソウンスリング 120 c m	2	CE 規格品 強度、携行、鎖場での使用等考えるとダイニーマ製の細身のソウスリングが望ましい。
	ソウンスリング 60 c m	2	CE 規格品 強度、携行、鎖場での使用等考えるとダイニーマ製の細身のソウスリングが望ましい。
	ブルージックコード	1	引き上げシステムの構築に使用する。軽量アッセンダーでも可。
	セルフジャミングプーリー	任意	CE 規格 引き上げシステムの構築に使用する。セルフジャミング機能付であること。携行に便利な小型なものを推奨。オーバルカラビナとセットで装備する
	皮手袋(ロープワーク用)	1	操作性、耐久性を考慮すること。
	登山用ハーネス	1	CE 規格品 セパレートタイプ、ダイアパータイプがある。ダイアパータイプ=レックグループをクイックバックルなどで固定・解除が容易にできるため、クランポン、スノーシュー(ワカン)等を装着したまま着脱ができる。軽量、コンパクト。実技検定ではどちらを使用しても構わないが、ダイアパータイプを推奨する。ピレーループに、反転防止機能付 HMS カラビナ装着すること。
	登山用ヘルメット	1	CE 規格品 自分の頭部サイズに合ったものを選ぶこと。
沢登り装備	沢登り用シューズ	1	フエルトソールの沢靴推奨 ★
	沢登り用スパッツ&ソックス	各 1	発泡ラバー素材の用品のこと。ソックスはウール製でも可。 ★
	沢登り用ジップシャツ&タイツ	各 1	薄型発泡ラバー素材で保温効果のあるもの。登山用ウェアでも可。 ★
雪山装備※積雪期のみ	品名		説 明
	冬季用登山靴	1	無雪期用の登山靴は不可
	冬季用アウター・パンツ	1	実技授業実施地の天候に応じた、雪上の活動に相応しい服装(上・下)
	ゲーター	1	雪の侵入を防ぐもの。ゲーター付き冬用登山靴でも可
	防寒具	適量	防風防寒着、ニット帽、バラクラバ、ネックウォーマー、手袋等
	ゴーグル・サングラス	各 1 ～	予備も持参すること
	ビーコン	1	アンテナ 3 本内蔵のもの
	プローブ	1	長さ 3m 推奨
	スノーシャベル	1	携行に向いたもの。雪崩対策に適しているもの。
	ピッケル	1	縦走用のもの。ピッケルバンド装着も可。移動時はカバーを付けて携行すること
	アイゼン	1	縦走用 10 ～ 12 本爪
	スノーシュー	1	起伏のある山岳エリアで有効なものを持参。当該エリアでは必携とする。ILM 認定必須事項
	ストック	1 セット	スノーバスケット装着すること
	ワカン	1	当該エリアで有効と指定された授業の時 ★

装備類は消耗品であることを踏まえ、古いスリング、ロープなどは使用しないようにしてください。

装備表には、職能範囲以外の装備も含まれています。授業を実施する上で必要な装備ですので、基本的にはご購入いただきたいと思いますが、場合によっては、レンタル装備をご自分で手配していただくことも構いません。購入するのもレンタルするのも、費用的には、大きく変わらないでしょう。

※レンタルでもよい装備には★印を付けています。

＜登山ガイド育成カリキュラムと日程＞

	授業テーマ	授業・講義の内容解説	開催予定地
第1回 4月26日(土) ～28日(月) 2泊3日	開校式 オリエンテーション 室内授業 1, ガイド概論 2, 日本近代登山史、ガイドの歴史 3, 登山用具及びガイド装備に関する知識 4, 基礎的知識(自然環境に関する事柄) 5, 基礎的知識(自然科学に関する事柄) 6, 農山村に関する基礎知識(歴史、文化) 8, 山の天気(気象に関する基礎知識) 9, 読図・地形解説の基礎知識 野外授業 登山ガイドに同行する体験授業 上高地特別天然記念物・名勝ガイドツアー体験 1, 登山道の歩行とガイディング基礎 2, 歩行時における安全対策 3, 無雪期のルートガイディング	靴の履き方、ザックのフィッティング、パッキング、ウェアのレイヤリングから始まり、ガイドがどのように顧客に教えたり、解説したり、安全管理を行うのかを知るガイド体験。 ルートガイディングに必要な地形図、概念図、コンパス。 ガイドが顧客に配布する解説資料とはなにか。 装備リストを基にガイドとして所持すべき適切な装備の説明 パッキングが適切に行えるか	上高地 アルプス山荘 及び周辺
第2回 5月5日(月・祝)～6日(火・祝) 1泊2日	野外授業 自然解説技術の基本 23, 地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド 24, 低山、里山の解説主体のガイド 25, 自然ガイド 四季を通じてのガイド 26, 自然に特徴のある里地、里山でのガイド (湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など)	※安全管理と同じくらい重要なガイドの職務である自然解説の基礎を学ぶ。 ガイド登山のテーマの決め方(登山史と紀行文・山岳信仰、古道など) ・楽しめる、興味を持てる解説を行う方法。 ・自然解説に必要な用具(双眼鏡、ルーペ、図鑑、サンプルなど)とは何かその活用方法。 ・解説資料の作成、配布、活用を適切に行う方法。	西上州 荒船山周辺 (物見山・兜岩山)
第3回 5月17日(土) ～18日(日) 1泊2日	野外授業 基礎的なロープワーク 6, サバイバル技術、ビバークとツェルト 11, 岩稜、岩場の通過時の安全対策 (ロープワーク)	ロープの結び方、まとめ方、ツェルトの張り方などの基礎的な知識と技術の習得。 ・ロープの結び ノット、ヒッチ、ベントの違い。 ・ボーラインノットにおける「リング荷重」の危険性の理解。 ・基本的な結び方(フィギュアエイトフォロースルー／オンアバイト、ダブルオーバーハンドノット、クロウプヒッチ、バタフライノット、ガースヒッチ、ボーラインノット、ムンターヒッチ、オートブロック(マッシュャー)、クレイムハイト等)の練習。 ・ボーライン(自分、および顧客に)～末端処理(ダブルオーバーハンドノット)の練習。 ・スリングを利用した簡易チェストハーネス(顧客にシートベントで)の作り方 ・固定ロープの支点を、ボーラインで固定する方法。 ・スリングとカラビナを使用して中間支点(2ヵ所)の構築。(ガースヒッチもしく	廻り目平

		はラウンドターンにて支点構築、ロープの固定はクローブヒッチ、およびバタフライノットを使用) ・メインロープを終点に固定できるか。 ・固定ロープを利用して、顧客を安全に誘導する方法。 ・強固な確保支点を構築する方法。 ・緩斜面で、顧客をムンターヒッチにより下降する方法。 ・顧客を下降させている際に、ロープを仮固定。 ・腕がらみで下降とロープの回収。 ・登山道から転落した顧客まで安全にアプローチできるか。(斜面は 30 ～ 40 度程度、転落距離 5m 程度、顧客にケガはないものとする。顧客までは徒歩でアプローチする。) ・引き上げシステム (1/3 引き上げシステム) が構築 (専用デバイス: セルフジャミングブーリーや軽量アッセンダーなどの使用も可とする)	
第 4 回 5 月 31 日 (土) ～6 月 1 日 (日) 2 日間	室内授業 ファーストエイド授業 2 日間コース ※日程に関しましては調整のため変更する可能性があります。	(カリキュラム: 32、33、34) ・ファーストエイドの目的 ・基本的な傷病者の評価の方法 ・心肺蘇生法 C P R ・局所の観察と治療 ・頸椎損傷の処置 ・外傷 ・骨折 ・山で起こる病気、怪我とその処置 ・ガイドの心のケア	神奈川・日体大
第 5 回 6 月 13 日 (金) ～15 日 (日) 2 泊 3 日	野外授業 残雪期の雪山体験 月山周辺での残雪の雪上歩行 アイゼンを使った雪上歩行 21, ナビゲーションとオリエンテーション技術(残雪期) 22, 残雪期のルートガイドング	残雪期の高山でのリスクを知り、ガイドによる安全管理を理解する。 ※ロープワークの基礎、雪上歩行技術、岩稜登高技術、安全配慮技術などを学ぶ。 ・残雪上 (トレース上) で雪上用歩行器具 (アイゼン、ストック等) を使用せず、安定した歩きができるか ・残雪上 (トレース上) でアイゼン、ストックを適切に使用して、安定した歩きができるか ・残雪上 (トレース上) でアイゼン、ピッケルを適切に使用して、安定した歩きができるか	月山周辺
第 6 回 6 月 28 日 (土) ～29 日 (日) 1 泊 2 日	野外授業 秋田駒ヶ岳で高山植物を見る 自然解説技術基礎 2 23, 地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド 24, 低山、里山の解説主体のガイド 25, 自然ガイド 四季を通じてのガイド 26, 自然に特徴のある里地、里山でのガイド (湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など)	高山植物について ※自然解説の最も主要な要素である高山植物を研究者の立場ではなく、ガイドが顧客に対していかに興味深く解説するかを学ぶ。 危険植物、危険昆虫などの知識はあるか	秋田駒ヶ岳
第 7 回 7 月 12 日 (土) ～13 日 (日)	室内授業 17, ガイド業務に係る法律知識 18, ガイド業務における倫理 19, ガイド事業展開の実務概論	・ガイド業務における法的知識、倫理、ガイド事業の実務理論、営業、広告戦略、及び、ガイド商品の企画・立案の方法や注意点を学ぶ ・登山におけるスポーツ科学の基礎知識、トレーニング論、ガイドの健康管理を理解	オンライン or 佐久平

1泊2日 (or 2日間)	20, ガイドの営業・広告戦略概論 21, ガイド商品の企画・計画立案の方法及び注意点 7, 登山のスポーツ科学の基礎知識 22, ガイドの健康管理 25, 観光文化に係る知識 26, エコツーリズムとサステイナブルツーリズム 27 ネイチャーツーリズムの考え方	する	
第8回 8月1日(金) ～3日(日) 2泊3日	野外授業 テント泊による槍ヶ岳登頂 日本を代表する山岳コースをガイドと歩き、ガイドの役割を理解する。 1, 登山道の歩行とガイディング基礎 2, 歩行時における安全対策 3, 無雪期のルートガイディング 4, ナビゲーションとオリエンテーション技術(夏) 5, グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ 8, 天気の見方 観天望気の実習 9, 山中2泊3日の山行計画立案と実施(無雪期) 10, 山岳環境の知識と啓発実習 11, 岩稜、岩場の通過時の安全対策(ロープワーク)	パーティの状況や参加者の体調等を常に把握し、歩く順番を適宜調整する。 行程や地形及び参加者の状態に応じた適切なペースを作る。 登山道における他の登山者との安全に配慮したすれ違い(追い抜き・追い越されも)への対応を理解、実践する。 休憩を取るタイミング、適切な場所の選定。 休憩時に体調管理アドバイス(水分・カロリー補給、ウェア調整) ルート上での地形図の整置、及び現在地の把握ができるか。 山座同定(景観からの同定と地図からの同定)、計画変更を考慮した山域把握ができているか。 ルート上での観察できる様々なリスクを把握できているか 行動中、登山道の悪場等の状況に応じた適切な注意喚起、および安全管理。 増水した沢におけるの渡渉判断、渡渉点・渡渉(介助渡渉)についての注意喚起、及び安全管理の方法。 天候急変、悪天候での顧客に対する注意喚起、撤退やエスケープルートへの適切な対応 歩行に支障がでた参加者の下山を、ロープ又はスリングで手際よく補助する。	新穂高～槍平～ 槍ヶ岳～槍平～ 新穂高
第9回 8月16日(土) ～17日(日) 1泊2日	野外授業 沢登り体験・ヤチキ沢 2, 歩行時における安全対策 3, 無雪期のルートガイディング 4, ナビゲーションとオリエンテーション技術(夏) 5, グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ 11, 岩稜、岩場の通過時の安全対策(ロープワーク) 12, 沢の渡渉時の安全対策	初歩の沢登り体験 ・沢登りのリスクを意識する ・日本の固有でオリジナルな山歩きのスタイルを体験し、その魅力とリスクを知る。 ・水遊びに必要な装備、および警戒すべき気象についての知識	日向山周辺 神宮川・ヤチキ沢
第10回 8月30日(土) ～31日(日) 1泊2日	野外授業 奥秩父・ナメラ沢～雁坂峠 6, サバイバル技術、ビバークとツェルト 11, 岩稜、岩場の通過時の安全対策(ロープワーク) 12, 沢の渡渉時の安全対策 27, ガイディング・引率技術・ガイドのロープ技術 28, 岩稜、沢登りなど難路のガイド 29, 中級山岳のガイド技術	初歩の沢登り(カリキュラム: 6, 11, 12, 27～29)	奥秩父 ナメラ沢～雁坂峠 小屋泊 or ツェルト泊(ビバーク)

	30、高山帯のガイド技術		
第 11 回 9 月 13 日 (土) ～ 15 日 (月・祝) 2 泊 3 日	野外授業 木曽駒ヶ岳 <u>桂小場～将棋の頭～木曽駒ピストン</u> 無雪期のルートガイディング技術の復習 1、登山道の歩行とガイディング基礎 2、歩行時における安全対策 3、無雪期のルートガイディング 4、ナビゲーションとオリエンテーション技術(夏) 5、グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ 6、サバイバル技術、ビバークとツェルト 7、応急処置と救助の実習 8、天気の見方 観天望気の実習 9、山中 2 泊 3 日の山行計画立案と実施(無雪期) 10、山岳環境の知識と啓発実習 11、岩稜、岩場の通過時の安全対策(ロープワーク) 27、ガイディング・引率技術・ガイドのロープ技術 30、高山帯のガイド技術	クラシックルートをガイドする 新田次郎著作『聖職の碑』コースを歩く ※一般登山者が使うロープウェイコースではないクラシックコースをガイドする意味。その魅力と価値。 ガイド実習として行う。 ・自己紹介、参加者全員のメンバー把握、服装・装備・体調の確認をする。 ・当日のコース及び天気概要の説明と行動上の注意をする。 ・効果的な準備運動または整理体操について指導、実施できる。 ・適切な登山計画書を作成(基本情報・サブプラン・エスケープ等) ・登山道から転落した顧客まで安全にアプローチできるか。(斜面は 30 ～ 40 度程度、転落距離 5m 程度。顧客までは徒歩でアプローチ。) ・引き上げシステム(1/3 引き上げシステム)の構築。(専用デバイス：セルフジャミングプーリーや軽量アッセンダーなどの使用も可) ・確実な引き上げ作業ができるか。	木曽駒ヶ岳
第 12 回 9 月 27 (土) ～ 28 (日) 1 泊 2 日	野外授業 三ツ峠 27、ガイディング・引率技術・ガイドのロープ技術 28、岩稜、沢登りなど難路のガイド 31、岩稜登高技術	初歩の岩登り体験(27、28、31) ロッククライミングの基礎的な知識 (クライミングギアの使い方・動作などを体験)	山梨県 三ツ峠
第 13 回 10 月 4 日 (土) ～ 5 日 (日) 1 泊 2 日	室内授業＋野外授業 10、自然観察解説技術 11、安全管理技術 12、危急時対応技術 15、リスクマネジメント 16、リスクアセスメントの方法 23、ガイドのコミュニケーション論 24、ガイドの異文化コミュニケーション論 ☆積雪期装備説明	・室内授業と野外授業 半日 ・施設周辺の里山ガイド体験 ・危急時対応技術の実践	長野県・小諸 安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター
第 14 回 10 月 11 日 (土) ～ 13 日 (月・祝) 2 泊 3 日	野外授業 白峰南稜 鹿ノ子池ベース 水無峠山周辺 1、登山道の歩行とガイディング基礎 2、歩行時における安全対策 3、無雪期のルートガイディング 4、ナビゲーションとオリエンテーション技術(夏) 5、グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ 6、サバイバル技術、ビバークとツェルト	未整備山域での幕営山行 ・徹底した実践的な読図 (ルート設定・現在確認など) ・地形図、その他の登山地図を使って整置および山座同定ができ、山の解説ができるようにする。 ・ルート上での地形図の整置、及び現在地の把握が正しくできる。 ・山座同定(景観からの同定と地図からの同定)、計画変更を考慮した山域	白峰南稜 鹿ノ子池ベース 水無峠山周辺

	8, 天気の見方 観天望気の実習 9, 山中2泊3日の山行計画立案と実施（無雪期） 10, 山岳環境の知識と啓発実習 29, 中級山岳のガイド技術	把握ができています。 ・ルート上での観察できる様々なリスクを把握ができています。 行動中、登山道の悪場等の状況に応じた適切な注意喚起、および安全管理ができる。 ・未整備山域での幕営（水、トイレなど山岳自然環境の保全知識） ・環境に配慮する対応。（ゴミの処理、トイレ、踏み荒らしなど）	
第15回 10月25日（土） ～26日（日） 1泊2日	野外授業 富士山 青木ヶ原樹海・中道往還・迦葉坂 23, 地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド 24, 低山、里山の解説主体のガイド 25, 自然ガイド 四季を通じてのガイド 26, 自然に特徴のある里地、里山でのガイド （湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など）	前回授業の授業内容（読図及び環境保全）を確認と復習 自然解説技術の確認 ・ガイド登山のテーマの決め方（登山史と紀行文・山岳信仰、古道など） ・ガイド解説資料の作成、配布、活用法についての研究。 ・顧客が楽しめる、興味を持てる解説法について。 ・自然解説に必要な用具（双眼鏡、ルーペ、図鑑、サンプルなど）とは何かを考える。その活用方法。	富士山 青木ヶ原樹海
第16回 11月15日（土） ～16日（日） 1泊2日	野外授業 滋賀県 高島トレイル リトル比良 1, 登山道の歩行とガイディング基礎 2, 歩行時における安全対策 3, 無雪期のルートガイディング 4, ナビゲーションとオリエンテーション技術（無雪期） 5, グループの統率とガイドとしてのリーダーシップ 6, サバイバル技術、ヒバークとツェルト 7, 応急処置と救助の実習 8, 天気の見方 観天望気の実習	晩秋の低山歩き ※関西及び中京圏からの登山者に人気のある比良山地と高島トレイルを知る。 晩秋の山のリスクを学ぶ。 ガイディングの実践 パーティの状況や参加者の体調等の把握、歩く順番を適宜調整。 行程や地形及び参加者の状態に応じた適切なペース配分を作る。 他の登山者と安全に配慮したすれ違い（追い抜き・追い越されも）への対応。 休憩を取るタイミング、場所の選定。 休憩時に体調管理アドバイス（水分・カロリー補給、ウェア調整） ルート上での地形図の整置、及び現在地の把握。 山座同定（景観からの同定と地図からの同定）、計画変更を考慮した山域把握。 ルート上での観察できる様々なリスクを把握。 行動中、登山道の悪場等の状況に応じた適切な注意喚起、および安全管理。 増水した沢においての渡渉判断、渡渉点・渡渉（介助渡渉）についての注意喚起、及び安全管理の方法。 天候急変、悪天候での顧客に対する注意喚起、撤退やエスケープルートへの適切な対応	滋賀県 高島トレイル リトル比良
第17回 11月29日（土） ～30日（日） 1泊2日	野外授業 自然解説技術基礎 1 23, 地域の歴史、地誌、風俗、民俗などのガイド 24, 低山、里山の解説主体のガイド 25, 自然ガイド 四季を通じてのガイド 26, 自然に特徴のある里地、里山でのガイド （湿地、特異な植生、特殊な地質、地形など）	自然解説技術基礎 1 山岳信仰について ※日本百名山は全て信仰の山なので、神仏の知識を学んでおくことで、山への興味をさらに深める。 ・楽しめる、興味を持てる解説ができるか。 ・自然解説に必要な用具（双眼鏡、ルーペ、図鑑、サンプルなど）を所持し、活用しているか	高尾山

		・解説資料の作成、配布、活用はできているか	
第 18 回 12月6日（土） ～7日（日） 2日間	国際マウンテンリーダー資格研修 ①UIMLA・IML 資格と活動（概論） ②海外活動に必要な知識-1 地図・宿泊・運送関連情報 ③海外添乗業務 Tips ④海外活動に必要な知識-2 気象・雪崩情報 ⑤救助システム研究 救助要請プロセス ⑥2泊3日のツアー計画立案 ⑦IML 活動と外国語コミュニケーション ⑧インバウンド対応 ⑨レポート	・ Union of International Mountain Leader Association（略称 UIMLA 日本語訳 国際マウンテンリーダー連盟）に必要な講習を行う	オンライン
第 19 回 12月20日（土） ～21日（日） 1泊2日	野外授業 志賀高原：積雪期ルートガイディング （積雪状況により変更有） 13, 積雪期登山のルートガイディング 16, 低体温症、凍傷の防止対策 17, 山中1泊2日の山行計画立案と実施(積雪期) 18, 雪崩地形の把握実習 20, 積雪期の安全管理技術 21, ナビゲーションとオリエンテーション技術(冬)	初冬の山での安全管理 ※初冬の山のリスクを知る。 ※東北地域の山域（積雪状況により変更有） ・歩くオーダーが適切か、再確認しているか ・顧客の調子や行程に則したペース作り、コース取りができるか ・適切な休憩のタイミング、場所にて、体調管理アドバイス及び排泄に関する説明が できているか ・顧客に必要な情報を円滑に伝えることができるか ・天候急変、悪天候下での顧客に対する注意配慮は十分か ・歩行時の顧客への注意喚起、及び安全管理は十分か ・危険地帯の通過時の注意喚起、通過の仕方（間隔やオーダー）や合図（ホイッスル等）の指示、ガイドの立ち位置が適切か ・悪天時の一時的休息に、積雪状況に応じたツェルトの適切な利用 ・積雪期ルートでの、地形図・コンパス・高度計を用いて進路を維持できるか ・積雪期ルートにおいて現在地を把握しているか ・山座同定（景観からの同定と地形図からの同定）	志賀高原 （積雪状況により会場変更あり）
第 20 回 2026 年 1月10日（土） ～12日（月・祝） 2泊3日	野外授業 白馬周辺：積雪期の登山のガイディング （積雪状況により変更有） 13, 積雪期登山のルートガイディング 14, 雪洞の建設とビバーク体験 15, スノーシュー使用時の安全対策 16, 低体温症、凍傷の防止対策 17, 山中1泊2日の山行計画立案と実施(積雪期) 18, 雪崩地形の把握実習 19, 雪崩対策の基礎 20, 積雪期の安全管理技術 21, ナビゲーションとオリエンテーション技術(冬)	ガイディングの確認 積雪期の登山（カリキュラム：13～22、34） ※積雪期のガイド登山についての基礎的知識を学ぶ。 ・雪山の装備を所持しているか ・積雪期のガイディングに適した服装 ・天候に配慮して出発準備をしているか ・顧客の装備のチェックおよび雪上歩行具等装着時のフォローと使い方の指導 ・出発時の顧客のビーコンチェックの理解 ・研修地域についての基礎的な知識があるか ・適切な解説が出来るか（場所、タイミング、時間など） ・環境への配慮、スノーシュー等使用時の環境保全上の注意をしたか ・楽しめる、興味を持てる解説が出来るか ・積雪上（トレース上）で雪上用歩行器具を使用せず、安定した歩きができるか	白馬周辺 （積雪状況により会場変更あり）

		・スノーシュー、ストックを使用し、安定した歩きができるか ・アイゼン、ピッケルを使用し、安定した歩きができるか 積雪上（トレースなし） で雪上用歩行器具を使用せず、安定した歩きができるか（ラッセル技術含む） ・スノーシュー、ストックを使用して安定した歩きができるか（ラッセル技術含む） ・アイゼン、ピッケルを使用して、安定した歩きができるか ・積雪状況に応じたルート設定（狭いエリアでのライン取り）ができるか ・雪洞の設営、イグルーの設営	
第21回 1月17日（土） ～18日（日） 1泊2日	野外授業 蔵王：雪山での安全管理 13、積雪期登山のルートガイディング 15、スノーシュー使用時の安全対策 16、低体温症、凍傷の防止対策 18、雪崩地形の把握実習 19、雪崩対策の基礎 20、積雪期の安全管理技術 21、ナビゲーションとオリエンテーション技術(冬)	雪山での安全管理 ※積雪期のガイディングを実際に行いその方法について学ぶ。 研修時、ウェアのレイヤリング。装備が適切に準備、使用されているか 積雪上（トレース上） で雪上用歩行器具を使用せず、安定した歩きができるか 積雪上（トレース上） でスノーシュー、ストックを使用し、安定した歩きができるか 積雪上（トレース上） でアイゼン、ピッケルを使用し、安定した歩きができるか 積雪上（トレースなし） で雪上用歩行器具を使用せず、安定した歩きができるか（ラッセル技術含む） 積雪上（トレースなし） でスノーシュー、ストックを使用して、安定した歩きができるか（ラッセル技術含む） 積雪上（トレースなし） でアイゼン、ピッケルを使用して、安定した歩きができるか 積雪状況に応じたルート設定（狭いエリアでのライン取り）ができるか 研修地の天候及び気象データ（積雪状況等）について把握しているか 顧客の装備・服装の確認を行ったか 出発時に顧客のビーコンチェックを行ったか 低温時に顔、指先などの凍傷予防の対策を顧客に指導をしているか 日焼け予防、雪目予防を顧客に指導しているか 寒さや濡れ、休憩の取り方など低体温症予防について指導しているか スノーシュー・ストック・アイゼン・ピッケルの使い方を、顧客に指導できるか 行動中、天候・積雪の状況を観察し、クライアントの状態から、ルートの選択や計画変更ができていくか	蔵王
第22回 2月7日（土） ～8日（日） 1泊2日	野外授業 谷川岳周辺：積雪期の登山 13、積雪期登山のルートガイディング 15、スノーシュー使用時の安全対策 16、低体温症、凍傷の防止対策 18、雪崩地形の把握実習 19、雪崩対策の基礎 20、積雪期の安全管理技術 21、ナビゲーションとオリエンテーション技術(冬)	積雪期の登山(カリキュラム：13～22) ※積雪期の安全管理について学ぶ。 ロープを使用し、斜面で顧客を下降させる（ムンターヒッチによる下降） ムンターヒッチを使用し、斜面を安全に登らせる 危険箇所の通過時に固定ロープを張りクライアントを安全に誘導する 悪天時の一時的休息において、積雪状況に応じたツェルト利用 行動不能時によるビバークで、積雪状況に応じたツェルトを利用し、クライアントを保温できるか 雪崩が起きやすい地形や斜度、厳冬期と残雪期の違いについて理解しているか 積雪の不安定性を示す直接証拠となる現象について理解しているか 脆弱性の高い積雪構造（スラブ、弱層、ウィークインターフェイス、滑り面）について理解しているか 雪崩危険地帯の通過時の注意喚起、通過の仕方（間隔やオーダー）や合図の指示、ガイドの立ち位置が適切か ビーコン、プローブを使った基本的な捜索ができるか（50m 範囲埋没2か所） シャベルを使った埋没者の掘り出しが出来るか 雪崩埋没者捜索の手順を理解しているか	谷川岳周辺
第23回 2月21日（土）	野外授業 北八ヶ岳 稲子岳・天狗岳周辺：積雪期の登山 13、積雪期登山のルートガイディング 15、スノーシュー使用時の安全対策	積雪期の登山（カリキュラム：13～22） ※総合的な積雪期ガイディング確認 ウェアのレイヤリングが適しているか、装備が適切に準備、使用されているか	北八ヶ岳 （稲子岳・天狗

～22 日（日） 1 泊 2 日	16, 低体温症、凍傷の防止対策 18, 雪崩地形の把握実習 19, 雪崩対策の基礎 20, 積雪期の安全管理技術 21, ナビゲーションとオリエンテーション技術(冬)	積雪上（トレース上）で雪上用歩行器具（スノーシュー、アイゼン、ストック等）を使用せず、安定した歩きができるか スノーシュー、ストックを適切に使用して、安定した歩きができるか アイゼン、ピッケルを適切に使用して、安定した歩きができるか 雪上用歩行器具を使用せず、安定した歩きができるか（ラッセル技術含む） スノーシュー、ストックを適切に使用して、安定した歩きができるか（ラッセル技術含む） アイゼン、ピッケルを適切に使用して、安定した歩きができるか 積雪状況に応じたルート設定（狭いエリアでのライン取り）ができるか 雪崩が起きやすい地形や斜度、厳冬期と残雪期の違いの理解 積雪の不安定性を示す直接証拠となる現象の理解 脆弱性の高い積雪構造（スラブ、弱層、ウィークインターフェイス、滑り面）の理解 雪崩危険地帯の通過時の注意喚起、通過の仕方（間隔やオーダー）や合図の指示、ガイドの立ち位置が適切か ビーコン、プローブを使った基本的な検索ができるか（埋没 2 か所） シャベルを使った埋没者の掘り出しができるか 雪崩埋没者検索の手順を理解しているか	岳周辺)
第 24 回 3 月 7 日（土） ～8 日（日） 1 泊 2 日	野外授業 北信・黒姫山、飯綱山周辺 積雪期ルートガイディング 安全管理	まとめガイド登山実習・積雪期（カリキュラム：13～22、23～26） ※1 年間のまとめとして、積雪期における読図、ルート設定、計画立案、ガイディング資料作成、安全管理、自然解説などすべての最終的な実習を行う。楽しく安全なガイド山行を確立しよう。	北信 （黒姫山・飯綱山周辺）
第 25 回 3 月 14 日（土） ～15 日（日） 1 泊 2 日	野外授業 三重県伊勢 朝熊ヶ岳岳道 無積雪期ルートガイディング 安全管理	まとめガイド登山実習・無積雪期（カリキュラム：1～8、23～26） ※1 年間のまとめとして、無積雪期における読図、ルート設定、計画立案、ガイディング資料作成、安全管理、自然解説などすべての最終的な実習を行う。楽しく安全なガイド山行を確立しよう。	三重県伊勢 朝熊ヶ岳岳道
第 26 回 4 月 4 日（土）	認定式・懇親会	東京都内の会場（レストランなど）で行います。会費制 6000 円前後。認定書授与式。懇談。	東京都内

登山ガイド育成学校入校申込書

貴会、登山ガイド育成学校の趣旨に賛同し、以下の通り入校申し込みをいたします。

申込み日 年 月 日

氏名	フリガナ	性別 男 女	西暦 年 月 日生まれ (歳)
住所	〒		連絡先 電話 () 携帯 ()
	Email 必ずメールアドレスを記載してください。 @		
緊急連絡先	〒 Tel 携帯		お名前 ご関係 ()
受講費の支払い方法 ☐ 一括払い ☐ 分割払い		初回 : ☐ 一括払い 998,000 円 支払 : ☐ 前期分割払い 550,000 円 金額 :	
事前アンケート (必ずお書きください) 1、最近3年間に登られた主な山をコース、ルート、季節ごとにお知らせください。 無雪期 積雪期 2、今までの(人生での)トータル登山日数を記載してください。(およそで可) 無雪期 (日) 積雪期 (日) 海外 (日) 3、山岳会、登山同好会などに加入されていますか。加入していれば会のお名前をお知らせください。 加入 加入なし			

メールにてご送付ください。 school23@jfmga.com

※日本山岳ガイド協会ウェブサイト「お知らせ」欄から申込用紙（Word ファイル）のダウンロードが可能です。

入校事前課題用紙

2025 年版 提出日 月 日

入校希望者 氏 名	
事前課題	ガイド資格を取りたい理由とどんなガイドになりたいか考えを述べよ。 (800 字以上 1600 字以内で記述すること)

メールにてご送付ください。 school23@jfmga.com

※日本山岳ガイド協会ウェブサイト「お知らせ」欄から事前課題用紙（Word ファイル）のダウンロードが可能です。